

第 2 期 事業報告書

期間：令和 2 年 11 月 1 日 ～ 令和 3 年 10 月 31 日

1 総括

第 2 期は既存事業に加えて、新規事業として「高梁川流域ライター塾」を実施し、メディア運営事業だけでなく、担い手育成に注力した。

メインとなるメディア運営事業に関しても、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、お出かけ・飲食記事よりも市民活動の取材に注力した結果、前期より認知度が高まると共に、行政・教育関係者・NPO・市民活動団体との繋がりが増える事となった。

とくに、2020 年 9 月に開設した第 2 弾メディア「備後とことこ」によって、人脈だけでなく視野が広がった。情報発信・ICT という「地域縛り」がない活動において、1 つの地域だけ見ているだけでは得られない視点が、複数の地域を知ることによって得られたと感じている。

その反面、収支としては前期に引き続き赤字となり、来期も赤字を拡大させた場合、事業継続が困難となるため、運営体制は縮小せざるをえない状況となっている。

また、今期は TechSoup Japan を通じた、システム基盤の整備を積極的に行った。Google Workspace・Microsoft 365・Slack・ペライチなどを導入。今後の人員増加（ライターなど外注メンバーを含む）にも耐えられる基盤が構築できた。

2 収支

経常収支として、1,057,407 円の赤字となった。前期からの累積赤字を含めると 1,883,849 円の赤字。日本政策金融公庫から 200 万円、代表理事戸井から 80 万円の借入を合算すると、負債は約 500 万円となる。

今期の売上は前期の 2 倍以上となっており、受託事業では黒字となっている。しかし、受託事業の利益を、メディア運営事業が食い潰す結果となっており、メディア運営事業のさらなる支出抑止を行うと共に、広告・寄付など幅広い活動資金源を確保できるよう、務めることとしたい。

3 実施した事業

メディア運営事業（とことこシリーズ）

倉敷とことこ・備後とことこの既存メディア運営を行った。新型コロナウイルス感染症による外出自粛などにより、お出かけ・飲食記事が書きづらい状況であったため、高梁川志塾などのセミナー、市民活動の取材に注力。ページビューとしては伸び悩んだが、行政・教育関係者・NPO・市民活動団体の繋がりが増える事になり、後述する「高梁川流域ライター塾」の実現に結びついた。

第2段メディア「備後とことこ」は一番の課題であった、尾道エリアのライター発掘に成功し、福山・尾道・笠岡の3市の記事が安定して執筆できる体制ができつつある。備後とことこの運営を通じて、「地元民」の繋がりが重要という認識を強くしたため、来期以降も地元ライターの発掘に注力することとする。

メディア全体としてページビューなどの数字は伸びていないが、運営歴が積み上がったことによる信頼性向上などがあり、Yahoo!・NTT レゾナント（goo・d メニューニュース）・瀬戸内海放送（ほ・とせな NEWS）など大手メディアとの提携&配信体制を構築することに成功。国内3キャリア系のうち docomo・SoftBank 系との提携が完了したため、来期は KDDI 系との提携実現を目指す。

ただし、法人としての収益悪化要因でもあるため、来期以降はさらに支出を抑制し、身の丈にあった運営とする必要がある。なお、当面新規メディア開始予定はないため、1期から続いていた商標出願に伴う支出が来期は無くなる見込み。

メディア	今期公開記事数
倉敷とことこ	92 本
備後とことこ	86 本
合計	178 本

イベント事業（岡山ブログカレッジ）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、自粛を続けていたが、今期は以下の通り開催した。

開催日	テーマ	講師
2020年12月20日	理想を実現するために会社作っちゃった	戸井健吾
2021年2月21日	コロナ禍とこれから。みんなの近況報告会	なし
2021年3月21日	まだ間に合う！税理士に聞くブロガーの確定申告	中原牧人
2021年4月18日	「ブログの本質」を知り初心者から100歩ぬけだす講座	ヨス

しかし、予定していた半分も実施できておらず、とくに2021年5月以降は、緊急事態宣言などが頻発し予定が立たなくなり、休止状態に追い込まれている。

コロナ前に開始したイベントであるため、「対面コミュニケーション」を重視していたこと、「個人ブログブーム」が去ったことなどもあり、集客的にも苦戦している。セミナー運営に関しては、次項の「高梁川流域ライター塾」へのリソースを集中するため、来期はイベントそのものを終了させる方向で検討を行う必要がある。

セミナー事業（高梁川流域ライター塾）

今期の新規事業として、とことこシリーズなど地域密着のメディアで活動し、地元民の目線で地域情報を紹介するライター（市民ライター）の養成を目的とした講座を行った。今期は、2回開催しているが、第1回はプレ企画という位置付けとしており、本格的な講座として設計したものは第2回となる。

回数	開催期間	委託元	申込者数
第1回	2021年2月7日 ～2021年3月7日	一般社団法人高梁川流域学校	9名
第2回	2021年9月12日 ～2021年11月14日	なし ※倉敷市「令和3年度高梁川流域地域づくり連携推進事業」補助金を受けて運営	207名

第2回については「無料」というインパクトもあり、全国から207名からの申込があり、反響は大きかった。期末時点では事業実施中で最終的な受講者数などは確定していないが、数年継続することで、定着させる手応えを感じている。

このためには、座学のみで開催ではなく、ライターとして実践経験を積む場を多く用意する必

要があり、とことこシリーズ以外の窓口を発掘する活動と、周知が重要になると考えている。来期は、「高梁川流域ライター」と名付けた、市民ライターのポータルサイト制作と仕事のマッチングなどの仕組み作りを並行して実施していく。

受託事業

メディア運営事業・セミナー事業で短期的な収益化が難しいことから、今期は受託事業にも注力した。

- ・ 代表理事戸井のシステムコンサルティング
- ・ 20万円程度の小口ホームページ制作
- ・ 冊子、ポスターなどの制作

とくに大きかったのは倉敷観光コンベンションビューローから受託した「倉敷観光ポスター」だが、その他にも小口ホームページ制作は対応できるフリーランス Web デザイナーも増え、複数案件をこなす対応が整いつつある。

懸念事項としては、ほぼ全ての案件のプロジェクト管理を代表理事の戸井が行っており、キャパシティの限界が見えつつあるとも事実。委託体制含めて、今後の案件増加に備えた体制作りが必要と考えている。

広告戦略と寄付募集（担当理事：村上）

「Google Ad Grants」を利用した広告活用を検討した。TechSoup Japan が企画したセミナーに参加したことで、Google の担当から助言などがいただけるようになったため、少しずつ稼働させているが、観光需要が冷え込んでいる状況では効果の判断が難しく、来期も継続して検討する。

寄付募集については、高梁川流域ライター塾の参加者向けのランディングページ制作を行った。ライター塾の終了が来期となるため、今期は稼働させていないが、反応をみながら適用範囲を広げていく予定。

児童養護施設への PC・スマホ貸与

前期に緊急事態宣言発出のため、緊急対応的に実施したが、今期改めて PC 提供元であるピープルソフトウェア株式会社、および児童養護施設の担当に意向を確認したところ、「継続的な取り組みとして実施したい」という確認がとれたため、対応を行った。

しかし「どこに提供するか」について判断ができなため、施設毎に PC 貸与の希望調査・割り振りなどを岡山県社会福祉協議会にお願いし、児童養護施設の施設長会経由で貸与を行う仕組みを構築。今期は以下の施設に対して貸与を行った。

時期	施設名	台数
2021 年 7 月	児童養護施設みのり園	PC4 台
2021 年 7 月	津山二葉園	PC1 台
2021 年 7 月	児童養護施設 岡山聖園子供の家	PC1 台
2021 年 7 月	児童養護施設 玉島学園	PC3 台

台数が限定されているため、今期の貸与は「高校生のための PC 貸与」として実施。並行して、施設全体としての利用調査も行い、世相もあり子どもへの貸与は増えているが、「施設職員の使う PC が不足している」という実態も見えてきた。

このため、子どもに限定しない取り組みとして来期以降も発生ベースで対応していく。

4 体制

2期は以下の体制で運営した。

代表理事	戸井 健吾
理事	岡本 康史 村上 智英 杉原 佑友太 木本 憲志
監事	坂ノ上 博史

以上。